

阿嘉島の蝶 part2

上林利寛
AMSL 調理担当

Butterflies in Akajima Island, part2

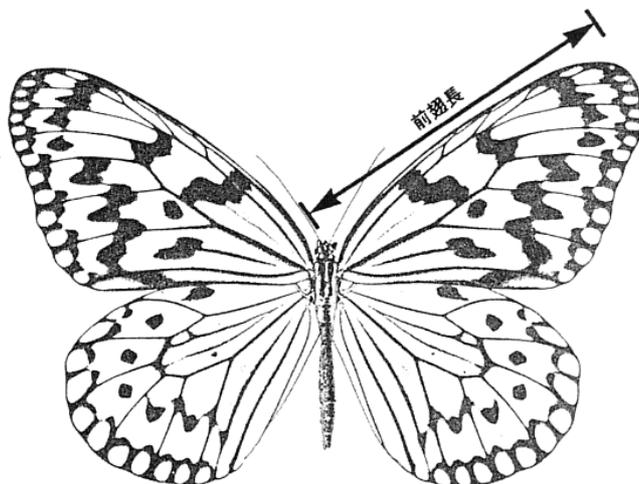
T. Kamibayashi

沖縄を代表する蝶の一つにオオゴマダラがいます。本誌 4 号で紹介した、アサギマダラやリュウキュウアサギマダラと同じく、マダラチョウ科に属する仲間、前翅長 60~75mm と、このグループの中では最大のものです。細長い身体に大きな翅を身にまとっているためか、飛び方は決して上手とはいえませんが、ひとたび上昇気流にのれば、羽ばたかなくともグライダーのように優雅に滑空できます。気温が上昇し、ダイバーたちでにぎわいを見せる阿嘉島の最盛期の 5 月頃には、研究所の裏山から、ひとひら、ふたひらと舞い降りてくる姿をよく目にします。

幼虫の食草は、キョウチクトウ科のホウライカガミという 3~5m 位のつる性の多年生草本で、海岸近くの雑木



林で見つけることができます。2 月ともなると寒さで光沢のある葉も幾分元気がないようですが、幼虫達は葉の裏側でじっと寒さを耐えているようです。幼虫の形態はかなりグロテスクで、黒地に白の縞模様、前部に 3 対、後部に 2 対の肉質突起を持ち、体側には赤色の斑紋と、イモムシ、ケムシの嫌いな人には耐えがたいものでしょう。他のマダラチョウの科の仲間にも言えることですが、アルカロイド系の有毒物質を持つことを捕食者に誇示する、一種の警戒色とされています。しかし、実際には食草によって、毒を持たないものもあり、鳥に捕食されるものも多いそうです。また、ヤドリバエに寄生された個体も



オオゴマダラ: 奄美諸島、沖縄諸島、宮古諸島、八重山諸島に分布。土着北限は奄美諸島の喜界島で、トカラ列島や鹿児島県南部にも迷蝶として飛来することがある。土着北限近くでは蛹で越冬するとされているが、阿嘉島では冬に成虫のほか幼虫も見ることがあり、特に越冬態はないようだ。

少なくとも、林の中で見つけた幼虫を持ち帰り、蛹(さなぎ)にまではすくすくと育ったのに、殻を破って出てきたのは数匹のウジ虫だったということもあります。

オオゴマダラの蛹は、全体がとても美しい黄金色の光沢に包まれています。白黒写真では、この金色ではなく、黄金色である違いをお伝えできないのが残念ですが、蛹をご覧になった保坂理事長の言葉を借りれば、「18 金ではなく、24 金の輝き」だそうです。

